

**製品名:** パンメチル化リジン (ミックス) マウスモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMM06167

研究使用のみ

## 概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	種に依存しない
標識	非共役
修飾	メチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

## 応用

**希釈倍率** WB 1:1000-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:50-1:200

**分子量**

## 抗原情報

**遺伝子名**

**別名**

**遺伝子 ID**

**SwissProt ID**

**免疫原** 結合タンパク質

## 背景

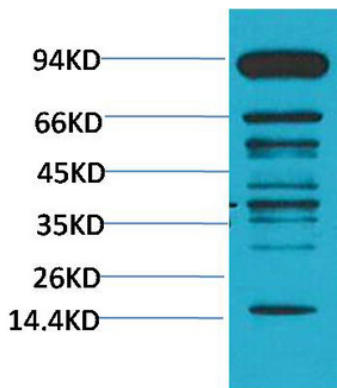
リジン残基のメチル化は、タンパク質リジンメチルトランスフェラーゼ (PKMT) による ε-アミン基のリジンのモノメチル化、ジメチ

ル化、またはトリメチル化をもたらす、一般的な調節性翻訳後修飾 (PTM) です。PKMT は、構造と触媒機構に基づいて2つのグループに分けられます。クラスIメチルトランスフェラーゼ (7βストランド酵素) と、SET ドメインを含むクラスVメチルトランスフェラーゼです。どちらもメチル供与体である S-アデノシル-L-メチオニンを用いて、ヒストンタンパク質と非ヒストンタンパク質をメチル化します。クラスIメチルトランスフェラーゼは、アミノ酸、DNA、および RNA をメチル化します。6つのメチルリジン相互作用タンパク質ファミリーは、結合ドメインに基づいて区別されます。mBT、PHD フィンガー、Tudor、PWWP、WD40 リピート、およびクロモドメインです。これらの多くは、リジンのメチル化状態に基づいて異なる結合優先度を示します。 KDM1 サブファミリーのリジン脱メチル化酵素はモノメチルリジンとジメチルリジンの脱メチル化を触媒しますが、2-オキソグルタル酸依存性の JmjC (KDM2-7) サブファミリー酵素もトリメチルリジン残基を修飾します。

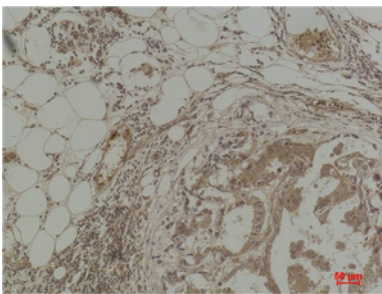
## 研究分野

-

## 画像データ



Pan メチル化リジン モノクローナル抗体を使用した HeLa のウェスタン プロット分析。



パンメチル化リジンモノクローナル抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。